

## 「事例検討会などの持ち方やあい方について」



浜田教育センター 教育相談スタッフ

令和3年度浜田教育センター相談スタッフの研究  
成果としてまとめられた「次へのヒントが見つかる  
ケース会議」(以下「次ヒント会議」)は、おかげさ  
まで学校教育現場の先生方にも大変好評を得ること  
ができました。令和4年度には、子ども安全支援室  
主催のもと、県内全ての教育事務所管内の小中学校  
生徒指導主任、主事の先生方を対象に、この「次ヒ  
ント会議」の説明、並びに演習を通して、各学校で  
本ケース会議を有益に活用できる研修をさせていた  
だくこともできました。

従来、学校現場で取り組まれていたケース会議と  
いうのは、とすると時間ばかりがかかり、費やし  
た時間の割には有益な解決策を見出せないまま終わ  
ったり、特定の職員が多く発言をしていたりするよ  
うなものが多かったのではないのでしょうか。

自分が困っていることをケース会議の議題として  
出すと、自分の取り組み方のまずさや力量のなさを、  
まな板の鯉状態で周囲から指摘されているように聞  
こえてしまい、「ケース会議」というものへの抵抗感  
が高くなってしまいうこともあるでしょう。学級担任  
制である小学校では特に、学級内で起こる様々な問  
題が担任個人に起因すると思ひ込み、背負い込んで  
しまうことも多く、ケース会議に向けての心理的ハ  
ードルは他校種と比べ、どうしても高くなってしま  
う傾向があるのではないかと思います。

この「次ヒント会議」は、その辺りの課題に着目  
したものです。最大の利点は、実際に困っている事  
例提供者(学級担任や教科担任、その他の教職員)  
が参加者からの質問に対して答えていくことを通し  
て、参加者から最終的に提案される取組案の中から  
自分ができるようなことを自分で選んでいくところに  
あります。

会議終了時にその課題がどうなっていればよいか  
という「ゴール設定」も事例提供者が最初に行って  
いくことで、参加者はそのゴールを意識した質問や

「次へのヒントが見  
つかるケース会議」



取組案を出すことになります。それぞれの段階には  
明確な時間設定がなされますので30~40分程度  
の時間で会議を終えることができます。また事例提  
供者が抱えている問題を一気に解決しようとするの  
ではなく、現状から一歩具体的な取組を行っていく  
ことで、問題解決に向けた好循環を生み出していく  
ことに着目しているのも、本ケース会議の大きな特  
徴と言えます。

既に多くの学校でこの「次ヒント会議」を実践さ  
れているのではないかと思います。何か困ったこ  
とに直面された時、先生方は、まずは周囲の先生や  
生徒指導主任、主事の先生に相談されるのではない  
かと思ひます。そこで有益な対策が見出せなかつた  
り、これをやってみただけどうまういかなかった、  
他の先生方の意見も聞いてみたいと思われたりした  
時こそ、この「次ヒント会議」の適切な実施時期で  
はないかと思ひます。

決して一人で抱え込むのではなく、大いに本ケー  
ス会議を活用していただければと思ひます。そして  
学校現場の先生方も子ども達も、明るく前向きに  
日々を過ごしていられることを願っています。